

クラミジア検査

クラミジアは近年もっとも蔓延している性行為感染症の一つです。感染しても大部分は無症状に経過することが多く、そのことがこの感染症の蔓延の原因にもなっています。クラミジアは子宮頸管炎といって子宮の入り口の部分に感染し、徐々に、子宮内、卵管、腹腔内へと感染は広がります。子宮内、卵管に広がると不妊症や子宮外妊娠の原因になったりしますし、腹腔内に広がった場合には急激な腹痛を起こしたりします。妊娠中には、子宮頸管炎から感染が子宮内に波及した場合、卵膜に炎症を起こして子宮の収縮を誘発し、流産や早産を惹き起こすこともあるとされています。また、お産の際に産道で赤ちゃんに感染し、結膜炎や肺炎を起こすこともあります。

妊婦健診では妊娠中期（22 週頃）に子宮頸管粘液の検査を行ない、感染の有無をチェックしています。検査はクラミジア自体を直接に確認する検査です。この検査が陽性に出た場合は、クラミジア頸管炎という診断になり、治療が必要となります。治療は再発予防のために夫婦同時に行うのが原則です。一人が治療しても、一人が未治療であれば、また感染してしまいます。治療には妊娠中に比較的安全とされている抗生物質を 2 週間使用します。